

国立大学法人お茶の水女子大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場として、すべての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させることを目指している。第2期中期目標期間においては、21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成することを目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「共に住まい共に成長する」ことをコンセプトとした学生寮「お茶大 SCC (Students Community Commons)」を建設し、寮内において学生支援プログラムを実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 監事と学長とが毎月ミーティングを行い、監事からの提言を大学運営に反映させている。
- 学長を本部長とし、全評議員を構成員とする男女共同参画推進本部を設置し、教育プログラムや雇用環境を整備するとともに、国際シンポジウム「未来を創造する大学」20歳のミッションー未来から創造する“今”ーを開催している。
- 研究者本人又は配偶者の妊娠中・出産後、親族の介護や病気看護に関わる学内研究者に対する一時支援を実施し、仕事と生活の調和を実施する取組を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 企業等からの受託研究・共同研究の獲得（契約）増に向けて、最近の研究情報を収めた「大学研究紹介集」を作成し、イベント等で配付するとともに、ウェブサイトで発信するなど、外部資金獲得に向けた取組を行っているものの、外部資金比率は 5.4%（対前年度比 0.2 ポイント減）と平成 22 年度（対前年度比 2.0 ポイント減）に引き続き低下していることから、外部資金獲得に向けより一層の取組が期待される。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6%以上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（ ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 ）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（ ①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守 ）

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 山口大学との提携によるウェブサーバー及び DNS（Domain Name System）サーバーの遠隔バックアップを稼働し、停電時においてもウェブサービスの利用を可能とするなどの安全性向上を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「共に住まい共に成長する」ことをコンセプトとして建設した新しい学生寮「お茶大 SCC (Students Community Commons)」について、平成 23 年度からの学生の入寮に併せ、寮内において、学修プログラム・発表会など、学生支援プログラムを開発・実行しており、この寮のコンセプトと設計が認められ、2011 年度グッドデザイン賞（住宅部門）を受賞している。
- 学部学科等の枠を超えた学生主体の専門課程「複数プログラム選択履修制度」の導入に伴い、学生の修学をサポートするため、総合学修支援センターを設置し、総合的な学習相談、学修指導を行っている。
- 学生を対象にキャリア意識調査を実施し、調査結果に基づいてキャリア支援体制の整備再編計画を策定したほか、キャリアデザイン科目群を新設し、その基幹科目として 13 科目を設定している。
- 既存の大学独自の奨学金の対象や規模等を精査し、学部 3 年次生を対象とする学部生成績優秀者奨学金制度を新設し、第 1 回受賞者を決定、表彰している。
- 教育関係共同利用拠点に認定された湾岸生物教育研究センターにおいて、東京湾の浅海性・深海性の生物を活用する教育拠点として、利用大学の授業科目に応じたオーダーメイド実習や臨海実習を提供したほか、中学校や高等学校を対象とした臨海実習を 10 コース実施し、実験材料（ウニ等の海産動物）を 58 の中学校・高校・大学に提供している。

III. 東日本大震災への取組

- 「被災地支援プロジェクトチーム」を新設し、被災地支援に関連した共同研究を開始し、被災地において理科教育や保育等の支援活動を行っている。
- 震災で被災した学生に対し、入学料、授業料を免除する経済的支援を行っている。